



落葉樹は、冬の間は葉を落とし、枝に付いた小さな「冬芽」の形で、眠って春を待っていました。常緑樹は、葉は冬も活動していることがありますが、成長は止めて、冬芽をつくっていました。

開葉

さあ、働くぞ！



サクラの花が咲く頃から、落葉樹の冬芽が開いて、新しい枝葉が出てきます。サクラの葉も、早咲きの品種では葉が開いてきました。葉が開くとき、樹木は様々な動きを見せてくれます。落葉樹は、新しい葉を作らないと、新しい生活を始めることができません。早く葉を出せば、それだけ余分に光合成をすることができて、速く成長できますが、遅霜のリスクも見込んでおかななくてはなりません。

落葉樹に遅れて、常緑樹の新しい枝葉が出てきます。古い葉が先に活動しているはずですが(おそらく冬も活しているはず)、それは表面からは見えません。

イヌブナ

根元は芽鱗だが、先端の若葉を被うのは芽鱗ではなくて托葉



コナラ

内側の芽鱗は少し伸びる。若葉には銀白色の毛が密生している。

芽鱗のない裸芽は、小さい葉がそのまま裸出した冬芽をつくる芽がそのまま葉に成長するとおもいきや...



ムラサキシキブ
冬芽がそのまま葉に成長する



アワキ
冬芽がそのまま葉に成長する



アカメガシワ
冬芽から伸び出した若葉に赤い毛が密生している
葉身の基部付近に蜜腺があり、しばらくの間蜜を分泌する



オニグルミ(上)とヤマウルシ(下)は、外側の葉の伸びが悪い
完全な芽鱗ではないが、完全な葉でもない

サンショウの場合、一番外側の葉は、成長しない →
これでは裸芽ではなく、葉の形をした芽鱗があることになる

